

仙塩浄化センター脱水ケーキ貯留施設の建設に関する住民説明会 開催概要

1 日程・参加人数

日時	令和7年6月25日（水） 18:00～19:30	令和7年6月29日（日） 18:00～19:15	
参加人数	12名	5名	計17名 （両日参加1名）

2 主な質問と回答

○現状の課題について

- 1) 脱水ケーキ処分先の安定的な確保が難しくなっているとは、どういう意味か。
→県内近隣で処分先の確保が難しくなっている、ということである。
※ 補足：脱水ケーキの処分は、リサイクル利用のため、すべて中間処理施設に運搬している。
- 2) 維持管理費のコスト増大について、具体的に教えてほしい。
→遠方への運搬が増えたことによる輸送費の増加や、人件費で、平成28年頃に比べて4割から5割ほど処分費用が増大している。
- 3) 県内と県外の処分割合を教えてください。
→処分量の割合は県内近隣と関東圏で5：5程度。費用は3：7程度となっている。

○導入の効果について

- 1) コスト縮減された分は、住民に還元されるのか。
→下水道の料金の上昇を抑制する、という形で還元される。
- 2) 交通への影響が少なくなるとあるが、1日6台のトラックで、過去に事故や渋滞があったのか。
→令和4年度以降、事故や渋滞は発生していないが、事故リスクは軽減される。

○貯留施設の建設費用について

- 1) 建設費が12億円で、コスト縮減額が5,500万円だと、建設費の回収に20年以上かかり、「みやぎ型管理運営方式」期間中（令和23年度まで）に元が取れないのではないか。
→みやぎ型終了後も使用可能な施設であり、施設の電気代等も含めて25～27年で建設費の回収ができると試算している。なお、国庫補助を活用する予定であり、それを加味すると10年程度で建設費を回収できる見込みである。
- 2) 焼却炉の建設など、ほかの処理方法は考えていないのか。
→焼却炉の建設や維持管理費などについて比較して、今回の貯留施設が経済的と判断している。

○計画について

- 1) 焼却炉が40日停止するのに、なぜ貯留施設の容量は25日分なのか。
→焼却炉定期点検の終了後、焼却炉の余力で貯留した脱水ケーキを処理するが、消化汚泥は燃えにくいいため、少しずつ燃やしていく必要があり、次の点検期間までに全て燃やせる量として、貯留するのは25日分としている。
- 2) 貯留するのが消化汚泥ということは、消化タンクを通らない汚泥は搬出されるということか。
→40日間停止している間の25日分は、全量消化して貯留し、残りの15日分の汚泥は、これまで通り（消化汚泥と消化されていない汚泥を混ぜたものを）外部へ搬

出する計画としている。

○においについて

- 1) 整備前の状況把握として、においの測定はしているのか。その結果はどうか。
→昨年度は2回測定しており、今年度は3回測定予定。昨年10月24日の測定結果は、悪臭防止法による敷地境界で臭気指数15という基準に対し、最大で11であった。
 - 2) 風向きなどの影響もあるので、もっと測定するべきではないか。
→今後の測定において、風向きを考慮しながら測定を行う。
 - 3) においが基準値内であっても、実際にはにおう。地元の気持ちを理解してほしい。
→地元の皆様から、においがたまに気になると言われるのは、水処理施設のにおいかもしれない。ご不快な思いをさせて申し訳ないが、多少は生じてしまうことをご理解いただくとともに、気になる時には遠慮なく事務所へ連絡してほしい。現地を確認していく。
 - 4) においセンサーはどこにつけるのか。また、監視はどうするのか。
→脱臭装置の排気口に設置し、中央監視室にて常時監視する計画である。
 - 5) においセンサーを、複数設置してもらえないか。
→脱臭装置の排気口にセンサーを設置し、本来はそこから漂ってほかの空気で希釈された、敷地境界で守るべき基準値を、排気口で守るように計画している。
 - 6) 脱臭設備の活性炭は、においセンサーで劣化状況を把握しながら交換をするのか。
→標準で毎年交換することとしているほかに、センサーで脱臭設備のにおいの状態を監視し、活性炭の劣化が判明したら1年以内でも交換を行う計画としている。
 - 7) 消化汚泥のにおいは、現在焼却している脱水ケーキに対してどのくらいのレベルか。
→現在焼却している脱水ケーキは、消化汚泥と消化していない汚泥を混ぜて脱水したもの（消化汚泥のみだと焼却炉で燃えにくい）。今回貯留するものはすべて消化した脱水ケーキであり、においは通常の脱水ケーキと比較して半分程度となる。
- ※ 『当日画面での説明資料』参照
- 8) 貯留施設の他県事例はないのか。においの苦情等はないのか。
→関東、関西等で実績があり、施設ごとに消化汚泥や消化しない汚泥を貯留している事例がある。脱臭をしっかりとやっているので苦情等はないと聞いている。現地も確認しており、よりにおいの少ない消化汚泥を貯留する設計とした。

○今後について

- 1) 今後、説明会はあるのか。
→実際の工事に入る前に、工事説明会を開催したいと考えている。